

小学生の部

《特選》

当たり前の日常

亀山小学校 五年

永江 広奈 さん
ながえ ひろな

♪いいな、いいな にんげん
んっていいな

おいしいおやつに ほか

ほかごはん

こどもの帰りを待つてる

だろな

♪みんなでなかよくポチャ

ポチャお風呂

あったかい布団で眠るん

だろな

みんなが知っているこの歌にもあるように、朝ごはんを食べて学校へ行くこと、家に帰ると好きなおやつを食べて、好きなテレビやゲームをすること、ほかほかご飯をお腹いっぱい食べることに、あつたかいお風呂に布団、どれも、毎日私が当たり前のようになっています。

ることです。どれもできなかつたら困るし、できなくなると事を心配したことはありません。

自分がしたい事をする事、安心して家族と毎日を過ごせること、私にとっては当たり前のことが、他人によつてうばわれた人達が今この瞬間にもいます。戦争によつて日常を失った人々です。

ニュースでウクライナやイスラエルの悲しい出来事が流れるけれど、私からは遠く離れた世界の出来事のように、身近に考えることはありませんでした。けれど、私の住む町にもウクライナから避難をしてきた方がいることを知る機会があり、戦争で苦しむ人がいることをすごく身近に感じ、考えるようになりました。

戦争が起こる前は私と同じように、避難をしてこられた方にも自分の住む町で当たり前の日常があつたと思います。突然その日常を他人によつて

奪われ、遠く離れた国まで避難する。とても不安だつたと思つし、悲しかつたと思つします。当たり前がなくなることのおそろしさ、悲しさ、不安は私が想像する以上のものだと思つし、誰にも経験してほしくありません。当たり前の日常の中で笑顔で過ごせることが、とても幸せなことだと思つて感ずるようになりました。

世界で起きる出来事に私ができることは少ないかもしれないけれど、出来事の中で私と同じ子供たちがどう過ごしているのか、どんな気持ちでいるのか考えることや知ることがまずは大切だと思つています。自分のしたいことが自由にできるかを考えることが人権だと思つて過ごしていたけれど、自分も身近な人達も遠く離れた国の人達も、同じようにそれだけ当たり前の日常を過ごしているか考えることも人権だと思つました。自分の人権を大切にすることと同じよう

に、他人の人権を大切にすることで、みんなが当たり前の日常を笑顔で過ごすことができるんだと思つします。世界中の人々にとつて、にんげんっていいな、幸せだなと感じられるようになるといいなと思つています。

(注)本文中に引用されている歌詞の出典は、山口あかり作詞・小林亜星作曲の『にんげんっていいな』です。

《選評》

私達は、いろんな思いを抱きながら毎日を過ごしていて、それがあたり前の日常となつていきます。しかし、戦争や思いがけない災害で、たくさんの人達があたり前の日常を送れず、悲しみ、苦しんでいます。このことに共感を覚え、あたり前の日常が送れていない人達を思いながら、人権について深く考えている優れた作文です。